

I 水産物の価格動向

1 総論 ～「前年並みから高め」～

- ・全般的には、「前年並みから高め」の傾向となっている。
- ・漁獲量の減少、円安の影響等により価格が高騰している品目がある。
- ・特に、いくら、まぐろの漁獲量が少なく価格が高騰している。

2 水産物の価格の見通し

(1) 前年と比べて高い傾向にある品目（価格上昇が概ね1割を超える見通しのもの）

1	あじ	円安の影響による輸入品の高騰
2	サバ	円安の影響による輸入品の高騰
3	ぶり(天然)	水揚げが不安定
4	ぶり(養殖)	高温による死滅及び餌食いの悪さ
5	はまち	高温による死滅及び餌食いの悪さ
6	まぐろ(脂身)	商品も少なく特殊漁場など脂がある漁場に入札が集中
7	まぐろ(赤身)	漁獲量が不安定で供給が絞られている
8	煮ダコ	水揚げされるサイズが大型が少ない 円安の影響による輸入品の高騰
9	いか	不漁及び円安の影響による輸入品の高騰
10	甘えび	アルゼンチン産の品薄感と搬入の遅れ 生産量に対する需要増加
11	ブラックタイガー	円安の影響による輸入価格の高騰、特に大型サイズが高騰
12	塩ざけ	水揚げ量が少ない
13	いくら	水揚げ量が少ない
14	すじこ	水揚げ量が少ない
15	かまぼこ	すり身の高騰
16	伊達巻き	卵原価の高騰

(2) 前年と比べてやや高い傾向にある品目（価格上昇が概ね1割以下のもの）

1	タラバガニ	円安の影響による輸入品の高騰
2	酢ダコ	不漁及び円安の影響による輸入品の高騰
3	数の子	アメリカ産の減少

(3) 前年と比べて同程度の品目

1	まだい(天然)	水揚げが一部不安定であるが価格はほぼ横ばい
---	---------	-----------------------

2	まだい(養殖)	安定供給、浜値が安定
3	かれい	やや水揚げ不安定ではあるが例年並み
4	まだら	例年並みの水揚量
5	ふぐ	養殖池の在庫数は少なめだが浜値は安定
6	かき	今シーズンは維持、来シーズンはかきの大量死滅により未定
7	たらこ	すそ物原料はやや高いが、上物は安定的
8	めんたいこ	すそ物原料はやや高いが、上物は安定的

(4) 前年と比べてやや安い傾向にある品目（価格下落が概ね1割以下のもの）

該当品目なし

(5) 前年と比べて安い傾向にある品目（価格下落が概ね1割を超える見通しのもの）

該当品目なし

II 野菜の価格動向

1 総論 ～全般的に「前年並み」～

- ・全体の単価動向として、昨年と異なり、多くの品目で平年並みの単価に近づいた。
- ・夏場の高温障害の影響で、一部（たまねぎ、長ねぎ、里いも等）品目では生育不良も散見されるが、他品目については生育順調なものが多く、一部品目を除いて単価は平年並みに推移する見込み。

2 野菜の価格見通し

(1) 前年と比べて高い傾向にある品目（価格上昇が概ね1割を超える見通しのもの）

1	たまねぎ	生育期の高温による生育不足で小玉傾向
2	里いも	夏場の高温による生産量減による出荷量減 全国的に不作傾向
3	ばれいしょ	高温の影響による生育不足により小玉傾向
4	えのき	夏場の種菌の発生不良で失敗する生産者が多発 出荷量減少のため高値予想
5	エリンギ	大手メーカーの生産量が減少

(2) 前年と比べてやや高い傾向にある品目（価格上昇が概ね1割以下のもの）

1	かぼちゃ	輸入品の作柄は平年並みも円安の影響でやや高値で推移する見込み
2	なす	重油価格上昇によりハウス栽培の出荷量が安定しない
3	やつがしら	作柄は昨年並みも生産者減少による作付け面積の減少
4	本しめじ	種菌の発生不良で失敗する生産者の増加 大手メーカーの生産量減少が他産地にも影響しやや高値予想

(3) 前年と比べて同程度の品目

1	春菊	現状は出荷量は順調ではあるが、これからの気温低下が激しくなると生育に影響があり出荷減の可能性も
2	ねぎ	昨年同様に猛暑の影響による細物傾向 年末に向けて出荷数量は微増の予定だが、産地により出荷数量の差が大きい見込み（全体的に少ない予想）
3	ほうれんそう	生育順調で、安定出荷の見込み
4	トマト	出荷遅れのため、下旬にかけて出荷量は増えてくる見込み
5	くわい	生産者の高齢化等により生産量減少
6	さつまいも	順調な出荷が予想される
7	にんじん	各産地概ね順調な出荷予想
8	れんこん	昨年同様に、夏場の高温の影響で、畑での傷みも多く昨年比で1割程度減少での出荷予想 単価は昨年とあまり変わらない予想
9	生椎茸	相場に変動感がなく、生産量も安定し出荷量は前年並みの予想
10	舞茸	前年並みの生産量で相場は安定している
11	三つ葉	千葉県産は作付面積微減 例年より、出荷数量は少ない見込みも全体的な需要減により価格は安定

(4) 前年と比べてやや安い傾向にある品目（価格下落が概ね1割以下のもの）

1	小松菜	今のところ順調であるが、急な低温と干ばつによる天候次第で状況が変わる可能性もある
2	はくさい	現状、生育出荷も順調に推移する見込み
3	きゅうり	現状は順調な出荷だが、今後の天候次第で生育状況が若干減になれば相場も上がる可能性もある
4	ピーマン	西南暖地物は年末にかけて出荷量は増量の予想 年明けの売れ行き次第で相場は下がっていく予想
5	ごぼう	生育順調により出荷は順調、2Lの太物が多い

(5) 前年と比べて安い傾向にある品目（価格下落が概ね1割を超える見通しのもの）

1	キャベツ	生育も順調で、安定的な出荷見込まれる
2	ブロッコリー	夏の高温による影響はあまりなく、干ばつ傾向ではあるが安定出荷が予想される
3	レタス	高温のため、定植を遅らせての出荷により年末年始は安定数量の見込み 生産者は減少傾向で出荷量は横ばいからやや減の見込み
4	だいこん	天候による被害は少ない 干ばつ傾向ではあるが、安定出荷の予想

Ⅲ 果物の価格動向

1 総論 ～全般的に「やや安めから前年並み」～

- ・全般的には、「やや安めから前年並み」の傾向となっている。
- ・果樹関係の生産者の減少、高温等天候の影響により単価は年々高くなってきている。
- ・平年比よりまだ高い状況であるが、昨年に比べると今年は落ち着きを見せている。

2 果物の価格見通し

(1) 前年と比べて高い傾向にある品目（価格上昇が概ね1割を超える見通しのもの）

1	レモン	チリ産入荷が12月に入り減少、中旬以降はアメリカ産に移行、産地天候（高温）により入荷数量は少なめの予定
---	-----	---

(2) 前年と比べてやや高い傾向にある品目（価格上昇が概ね1割以下のもの）

1	グレープフルーツ	現状オーストラリア、メキシコ産ルビー中心の販売、中旬以降はチリ産、カリフォルニア産の入荷が見込まれる
---	----------	--

(3) 前年と比べて同程度の品目

1	いちご	栃木を中心とした関東主要産地は現在は出荷が伸び悩んでいるものの、出荷量は徐々に増加し、少なかった昨年を上回る出荷の見通し 静岡、九州産は遅れて年始からの出荷予想
2	バナナ	主要産地からの出荷量が安定しており価格は前年並み フィリピンの天候不順により小房傾向だが、年始より大房傾向になる予定

(4) 前年と比べてやや安い傾向にある品目（価格下落が概ね1割以下のもの）

1	オレンジ	オーストラリア産ネーブルを12月いっぱいまで販売予定、その後年始からはバレンシアに移行する
2	柿	前年は不作で単価高、今年度は平年作で数量も増加 資材、運送コストの高騰から、産地からの仕切価格は高い
3	りんご	数量的には少ないが、大玉から小玉と平均的に前年並みの出荷量、強風の影響でキズ果が多い

(5) 前年と比べて安い傾向にある品目（価格下落が概ね1割を超える見通しのもの）

1	みかん	大玉傾向、数量もほぼ計画通りで、不作だった前年比2割増の出荷予定
---	-----	----------------------------------

Ⅳ ガソリン・灯油の価格動向

- ・ガソリン・灯油ともに燃料油価格定額引下げ措置が実施されている。ガソリンについては、本年12月31日の暫定税率の廃止に向け、急激な価格変動による流通の混乱

を抑えるため補助金が段階的に拡充（暫定税率と同水準まで）されており、価格の値下がりが見込まれる。

灯油については、人件費を始めとする物価高騰による運営コストの上昇により、今年の価格は昨年同時期より値上がりしているが（全国平均で約 3.7%の上昇）、年末年始の価格は現在の価格と変わらない見込み。

- 国際原油市場に目を向けると、依然として中国とインドがロシア産原油を大量購入している状況が続いていることから、米国が懲罰的な対抗策を打ち出すのではないかと観測もあり、突然原油価格が高騰するリスクが潜んでいる。
- 在庫量は、ガソリン・灯油とも十分に確保されている。

		今年の価格（対前年）	年末年始の見通し	在庫
1	ガソリン	値下がりした	値下がり予想	十分にある
2	灯油	値上がりした	変わらない	十分にある